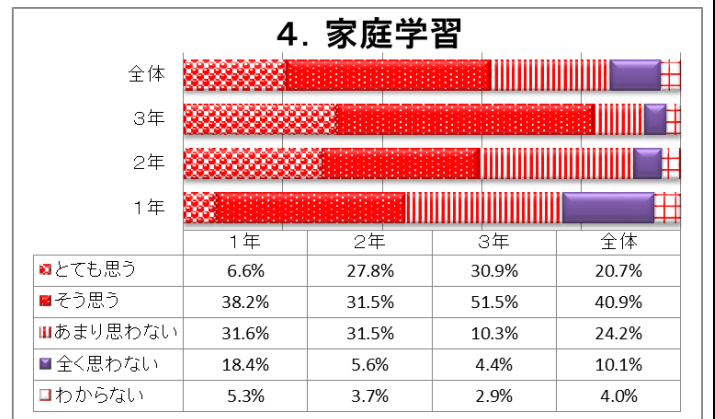
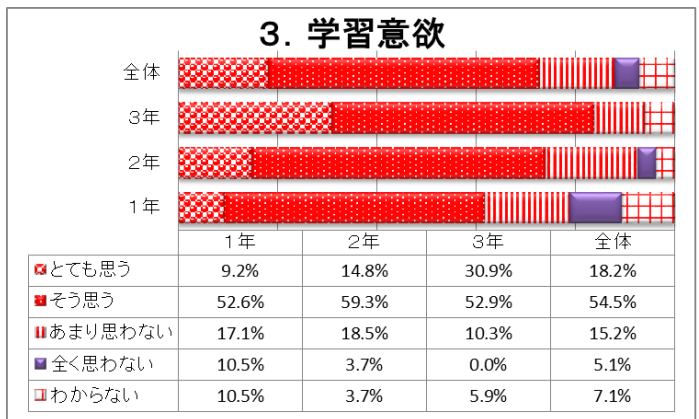
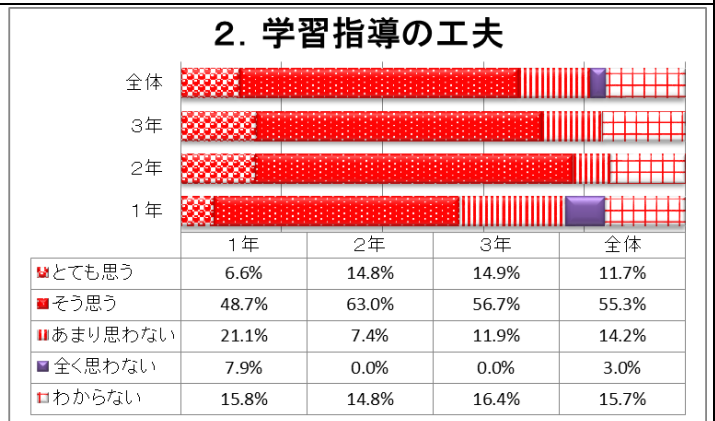
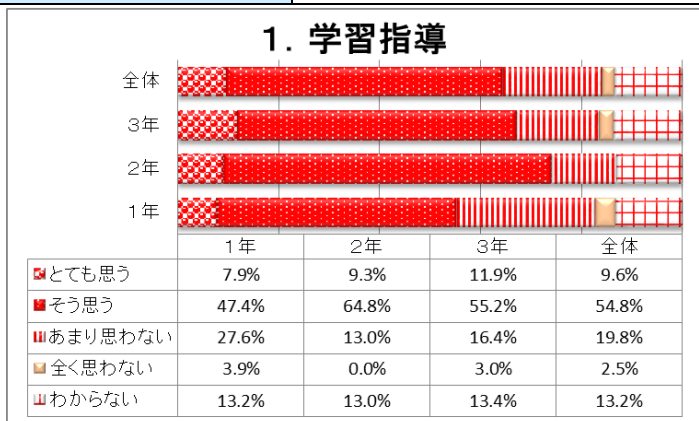


平成30年度 学校保護者評価（よりよい学校づくりアンケート）集計報告書

目的	本校の保護者にアンケート回答や意見を求めた後、その集計内容を学校教職員や学校協力者と共有し、来年度に向けてよりよい学校にしていくための資料とする。
実施方法	以下の本校教育目標の重要3点とその他を細分化し、それぞれについて評価を求めた。 1. 確かな学力の向上【共に学ぶ「共学」】 2. 心の教育の充実【自他を大切にする「共感」】 3. 特別活動の充実【共に育つ「共育」】 4. その他
評価方法	質問内容に関し、当てはまるものを5つの評価段階から選択する。 評価内容：4段階 [4…とても思う→→→1…まったく思わない] と “わからない”
対象者	国立市立国立第一中学校に在籍している生徒の保護者(A組を含む) 1年生：120名 2年生 144名 3年生：170名 計 434名
提出されたもの(回収率)	1年生：76名(63%) 2年生：54名(37%) 3年生：67名(39%) 計 197名(45%)
実施期間	配布：平成30年12月4日 提出期限：平成30年12月21日

集計結果 1 確かな学力の向上【共に学ぶ「共学」】



◇考察

本項目の集計結果において、学校の授業に対して概ね肯定的ではあるが、「1. 学習指導」「2. 学習指導の工夫」の2項目については昨年度から肯定的な回答が減少している。同時にこの2項目に対して、成果を上げていないと考える家庭や、実態がわからないと回答する家庭が昨年より増加し、全体の3割を超える結果となっている。今年度の1年生はこの2項目においては昨年度の1年生のアンケート結果に比べて数値が下がる結果であった。また「学習意欲」「家庭学習」の質問に対しては、昨年度からは大きな数値の変化は見られないが、1年生の学習意欲が他学年に比べると低いので、学習意欲を高める取り組みが必要である。

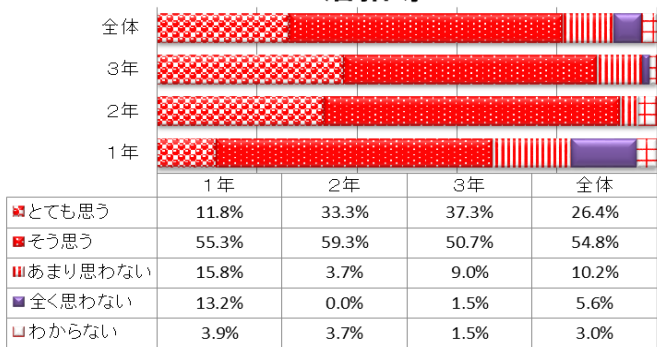
これらの要因として、各教科の学習指導において昨年に引き続き学習効果を高める工夫や取り組みが行われている一方で、教師によっては研修で得た知識を実践に結びつけられないことが課題と考えられる。引き続き授業

力向上のための研修と公開授業、管理職および教師どうしでの授業観察等を実践することで、教師の授業改善への意識を向上させ生徒の学習意欲の向上につなげていけると考えられる。

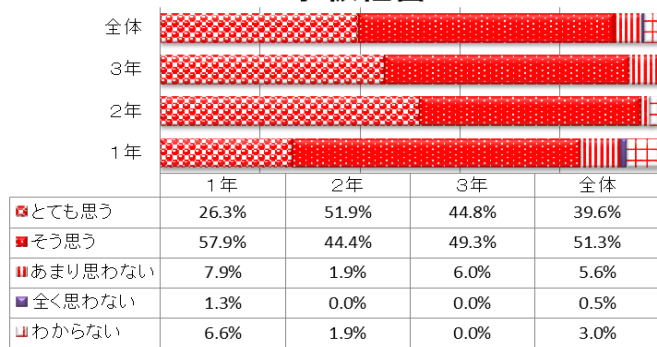
生徒が主体的に取り組める学習指導に力を入れることが大切であり、そのために研究で取り組んできた「質の高い課題設定」「伝える力と表現力の育成」を充実させた授業展開に、次年度も力を入れていきたい。また、学校だより、学年だより・学校 HP 等で学校からの発信を充実させることで学校の教育活動を理解していただくことが必要と考える。

集 計 結 果 2 心の教育の充実【自他を大切に作る「共感」】

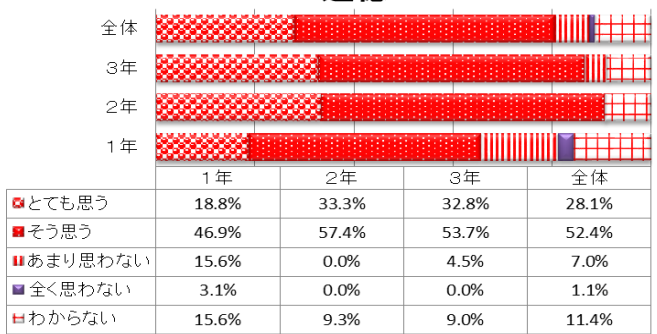
5. 生活指導



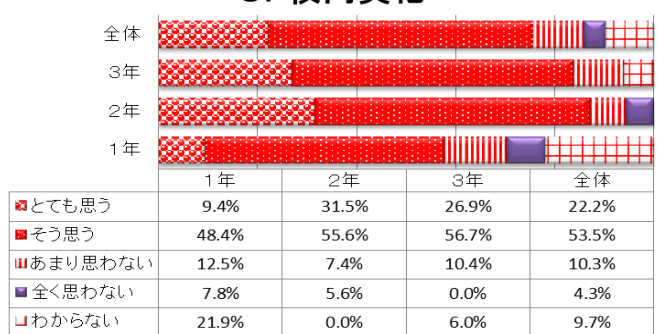
6. 学級経営



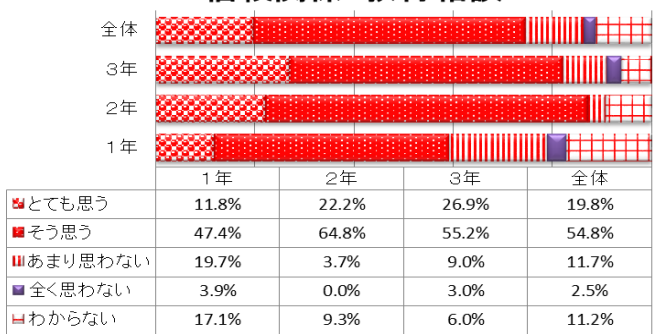
7. 道徳



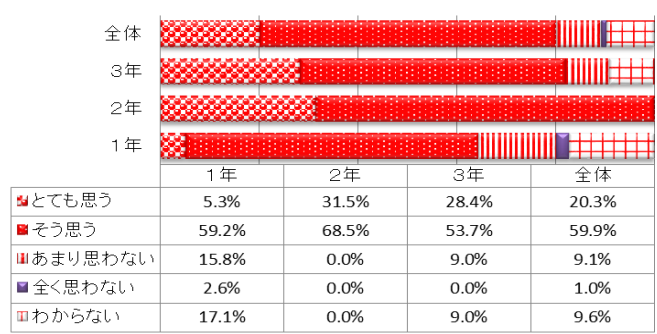
8. 校内美化



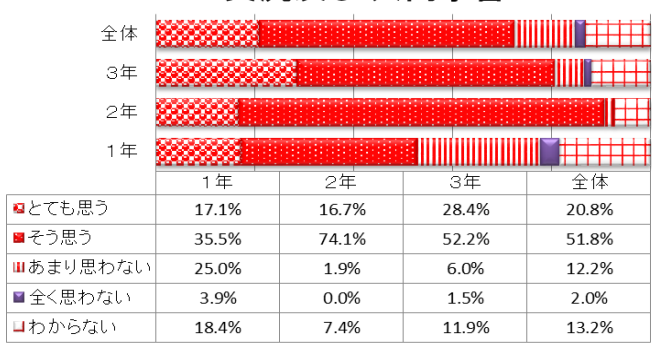
9. 信頼関係 教育相談



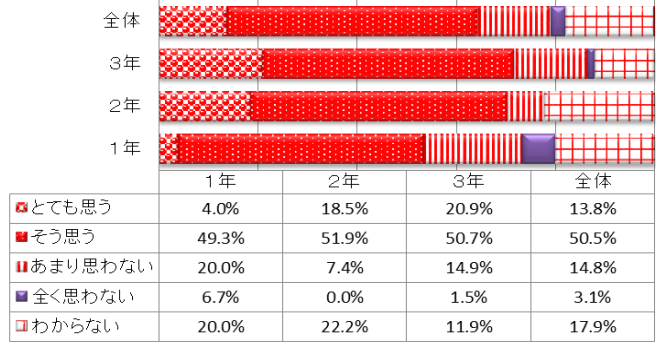
10. ボランティア活動



11. 交流及び共同学習



12. いじめ



◇考察

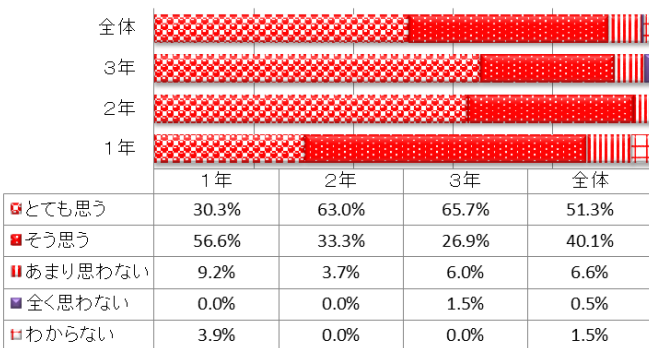
「生活指導」「学級経営」の項目では、8割以上の保護者の方が一中の指導に対して肯定的な意見をもっていることがわかる。しかし、「いじめ」に関しては肯定的な意見が7割をきっており、他の項目と比較し満足のいく数

値ではない。1学年は昨年度に比べて否定的な回答が多いのに対し、2学年と3学年は昨年度に比べて肯定的な意見が増える、またはほぼ変わらない結果となった。学年集団の特性の違いも考慮に入れつつ、この結果をしっかりと受け止めて、学年の道德教育の充実や、スクールバディによるいじめ防止活動を推進しながら、教員による生徒との信頼関係をより一層深めて学級経営や学年経営を充実させる。「校内美化」の項目では、昨年度に比べて肯定的な意見が8ポイント近く下がっているため、まず教職員が『きれいに大切に使う』意識を再確認して、清掃等の生徒指導に臨む必要があると考える。特色ある教育活動である「交流及び共同学習」の質問に関しては、全体は昨年とほぼ変わらない数値であったが2年生・3年生の肯定的な意見のポイントが上がっており、この項目に関する学校の基本方針が理解されてきたと思われる。引き続き学校の基本方針を理解していただくことに努めていきたい。

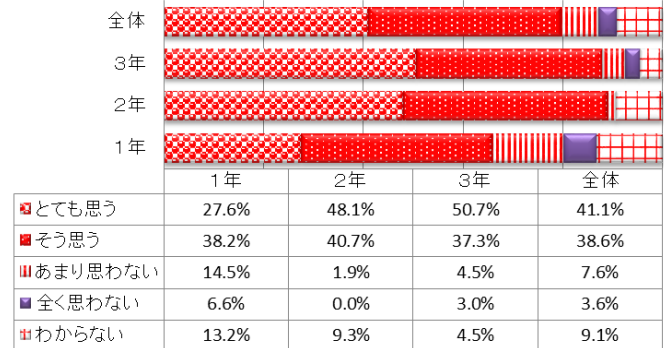
「信頼関係」と「学級経営」での肯定的な意見に16ポイントの差がある。学年・学級における全体指導での信頼度に対し、個別の対応が不十分なためにこの差が生じていると考えられる。今後更に、生徒一人一人へのきめ細かな対応を行い、学校からの配信を多くすること、学校公開等の充実を図ること等により、より一層の生徒理解につなげていくことが大切である。

集 計 結 果 **3 特別活動の充実【共に育つ「共育」】**

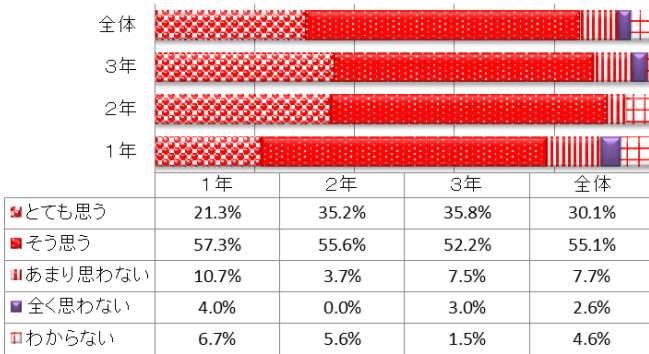
13. 学校行事



14. 特別活動



15. 生徒の学校生活

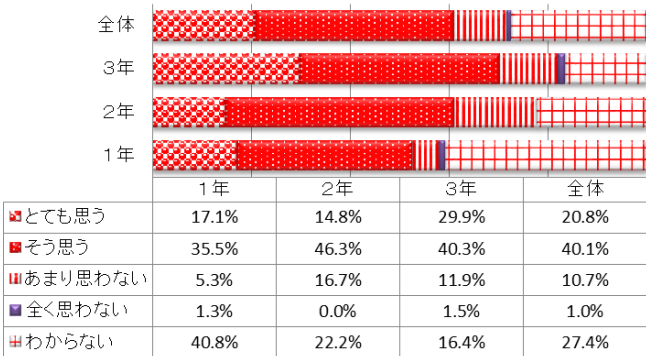


◇考察

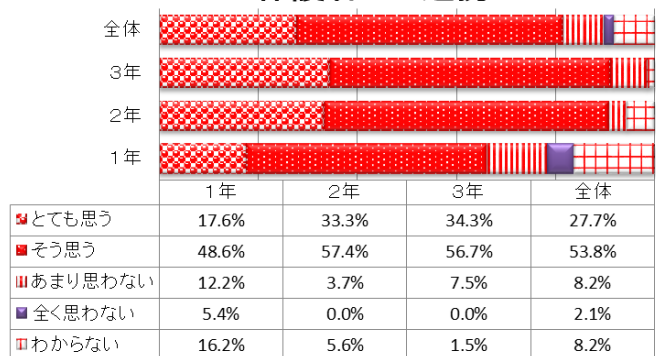
「学校行事」「生徒の学校生活」に関しては、行事運営の目的と方向性、学校生活における目標を、生徒および保護者の方が理解して取り組めて、高い評価を得ている。学年別では、1年生の『とても思う』が他学年より低いので、初めての行事の事前指導を充実させて行事への意欲を高めたい。

課題は、教員によって行事に関する指導力に差である。生徒の充実した学校生活のためにも、教員間の意見交換や若い教員に対しての指導を通して、学年および学校全体の指導力を高めていく必要がある。

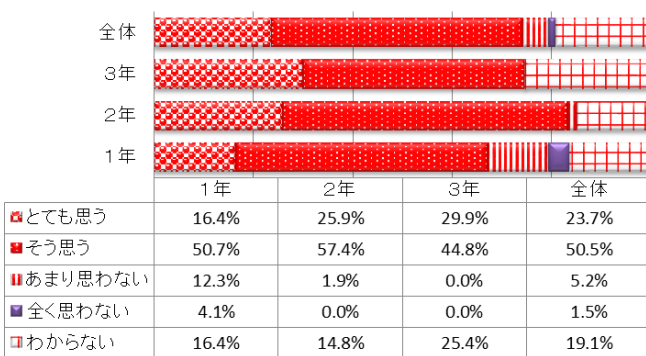
16. SNS関係



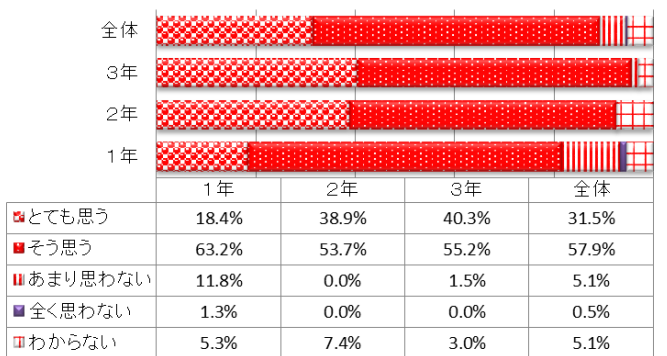
17. 保護者との連携



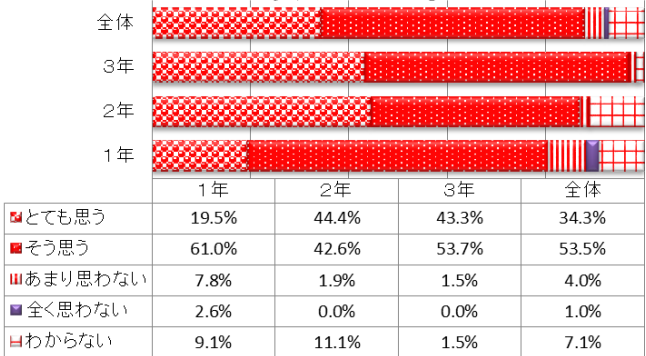
18. 地域との連携



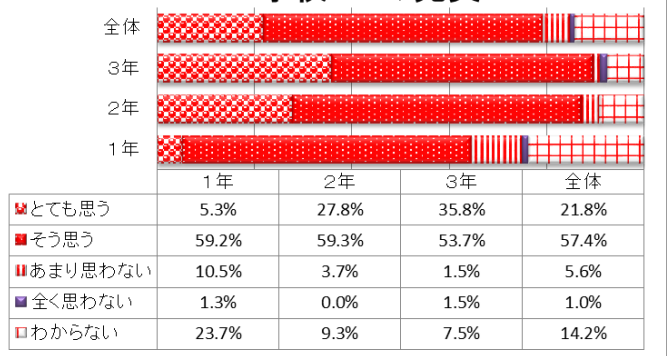
19. 学校の公開



20. 安全への対応



21. 学校HPの充実



◇考察

「SNS 関係」では6割近くの肯定的結果がでているものの、昨年度に比べると5ポイント近く落としている。その要因の1つとして、『SNS 一中ルール』の策定を経験している学年は3学年のみとなり、見直しを含めて引き継ぎがしっかりと行われていないことが考えられる。『SNS 一中ルール』の成果を、生徒・保護者の方が理解を深めるためにも、学校として継続的な取り組みが必要である。

「学校 HP の充実」に関しては昨年度から大きく肯定的な意見が増えたので、今後も HP の充実を目指し改善に向けて努力が続ける。PTA 活動、生徒会、特別活動等の活動報告をこまめに行うことで、教育活動へのご理解を一層深めていただく機会にしたい。また『わかりやすく、見やすい HP』を目指して内容の充実と、タイムリーな情報提供をこころがける。

全 体 考 察

学習に関するアンケートは概ね良い結果が出ているが、昨年度に比べると数値を落とす項目が多かった。特に、1学年に関するアンケート結果はまだ否定的な意見が他学年より多く、学校として危機感をもって改善に取り組む必要があると考える。また、多くの項目において否定的な意見のポイントが上がっていることを重要な変化として考え、1つ1つの要因を探り丁寧に対応し、生徒・保護者の方が安心して、楽しく過ごせる環境を作ることが必要である。最後に学校として今回の結果を真摯に受け止め、よりよい学校作りの取り組みを行い、保護者、生徒に期待される学校作りに励んでいきたい。